

# A班

資料29-1

村長

センターの人員  
配置(地域任用  
職員)を選出で  
きるか

センター長  
行政で募集し  
て欲しい  
予算も含む

## 人材育成

### 【発表概要】

センター化に向けた考え方として、数がたくさんあった時代の考え方に立ち戻るのも案。センター長は「村長」という考え方が出ている。各地区で一つの組織を作り上げないと難しい。

旧町村単位の  
考え方を再考  
する。

センター化に向  
けての区別は  
どうなるのか

三瓶町では小  
学校区のしば  
りはなじまな  
い

## 地縁

高齢者の  
災害時  
個別支援

放課後塾  
大人・子供

老人  
リゾート

病院の  
送迎

一人暮らしの  
人の支援

## 福祉

ひとりでも多くの  
人が  
防災資格者・取得

## 防災

何事にも  
整理整頓

## その他

公民館の活  
動促進  
社会教育

## 社会教育

観光産業の  
とりくみ

## 産業

# B班

資料29-2

※住みよい♡

福祉

防災

～人材～

人材育成  
若い人

各種団体の  
事務局  
(会計含)

～導入～

地域課題把握する機会  
アンケート  
公民館運営審議委員会のような  
組織

遊子川地区では高齢化が約  
53%になっており、5年、10年先  
には活動が難しくなる

営利

※空間

～空間～

学習・交流

行政

行政の窓口  
(ワンストップ  
サービス)

高齢ドライ  
バーの問題

移動支援タ  
クシー

買い物難  
民をなくす

災害時の  
避難場所

老人ホーム  
の充実を

買い物弱者  
への支援

金融機関  
(地元にな  
い場合)

出張診療  
所(地元にな  
い場合)

自主防災  
については、  
昨年、自  
助・共助に  
ついて4回  
に分けて受  
講し今後も  
続けていく

防災  
地震・津  
波の際の  
避難

防災組織の充  
実  
地区間の連携

福祉バス等  
の充実  
(交通網の整  
備)

病院に通うた  
めの交通手段  
公共の乗り物  
への配慮

商店  
(地元にな  
い場合)

交流の場  
カフェ  
居酒屋  
(地元にな  
い場合)

自然を活かした  
営利活動・発信

経済活動  
何がある

簡易宿泊所  
(地元にな  
い場合)

## 【発表概要】

- ・これからの若い人たちがどのようにセンターを活用して地域の中で生活していくかを話し合った。
- ・地域のこれからの話し合った。防災では避難所、福祉では買い物難民のことで話し合った。
- ・中学、高校生の交流の場が見えることで全世代、組織が交流できる活動拠点、場になってほしい。
- ・営利活動では自然を活かした営利活動の発信、簡易宿泊所で交流の場を。
- ・全部の流れを把握するためには住民に対してアンケートをとる。中学生からというのが地域に求められているかを聞き、センターが拠点になるように、短期・中期・長期と目標を決めて課題を解決できるようになればいい。

少子化する中  
での子供たちの  
活動充実

児童・生徒が学び、  
実践できるような  
場所づくり

会議の  
会場

三瓶高校存続  
生徒の確保  
現学生の学校生  
活の充実

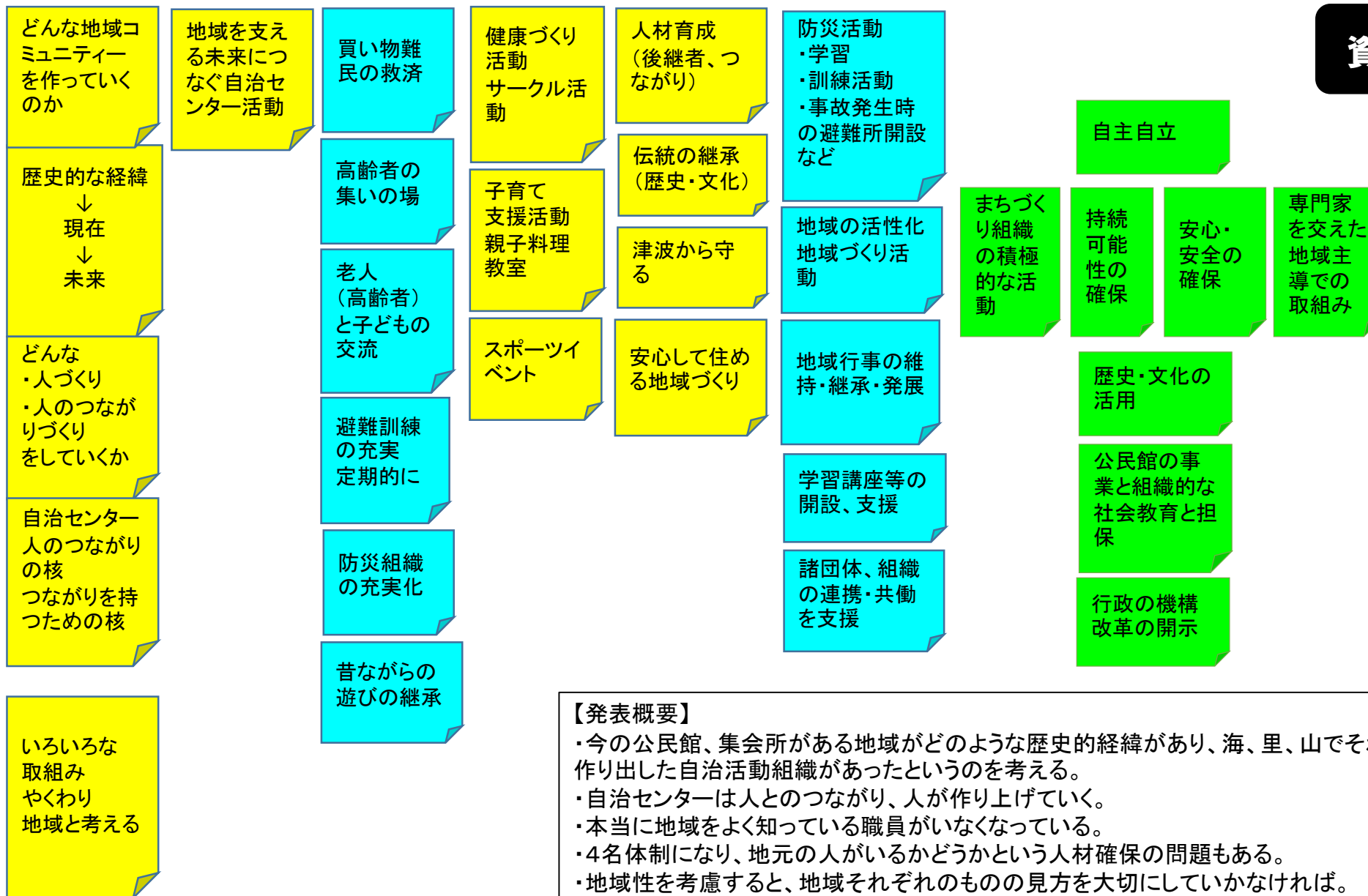
世代を超えた  
人々のふれあい

社会教育・人権  
教育の取組

老人クラブ  
婦人会等の充  
実

# C班

## 資料29-3



### 【発表概要】

- ・今の公民館、集会所がある地域がどのような歴史的経緯があり、海、里、山でそれぞれ地域の人が作り出した自治活動組織があったというのを考える。
- ・自治センターは人とのつながり、人が作り上げていく。
- ・本当に地域をよく知っている職員がいなくなっている。
- ・4名体制になり、地元の人がいるかどうかという人材確保の問題もある。
- ・地域性を考慮すると、地域それぞれのものの見方を大切にしていかなければ。
- ・地域の歴史的な人物や史跡などを知りながら、新しい自治組織を作ることも考えなければならない。
- ・将来にわたって持続可能なセンターになるのが大前提になる。
- ・人のつながり、ヒトと歴史を中心に考える。

# D班

## 検討

各種団体とのつ  
ながり  
見直し必要

公民館  
社会教育  
地域づくりの  
基本

## 交付金

交付金が無駄  
遣いできない  
安易なセンター  
ではだめ

交付金を継続  
できるのか

8億手上げ

## なぜ センター

一石起爆

少子高齢化

## エリア 規模

## 自主自立

センターを同規模で  
やるかを考える

・人口  
・仕事量  
・何をするか？

規模  
人員配置

規模  
一律ではない

住民の自主的  
な活動に職員  
は必要？

センターで地域  
の事務局をす  
べきか？

自主自立  
は何なの  
か？

手をすける  
のか？

地元が活動  
しなくなる？

## 提案

2段階

三瓶本部

↓  
北本部

↓  
東本部

↓  
南本部

## 資料29-4

### 【発表概要】

- ・センターの機能について。大きい小さいに関わらず一律にするべき。
- ・活動センター化して、三瓶町の端である周木・下泊地区の人口がゆくゆく少なくなっていくとなると、他と同じように活動することができなくなるのでは。
- ・人員配置について、卯之町の地域は8000人近くいることから、分割していった方がよいのでは。今の宇和公民館のように一つでは無理がある。
- ・「自主・自立」では、資料26にあった三瓶地区をはじめ5町の公民館活動について、目につくのが三瓶地区の公民館活動の部分ですが、予想ではおんぶにだっこで、いろいろなことを公民館の方で主にしてやっていただいている認識だった。ところが表で見ると、各区で自主自立の取組をしていることが分かった。その取組みがセンター化するとどうなるか。
- ・交付金は無駄遣いができないので、安易なセンターを立ち上げると無駄遣いになる。
- ・継続して交付金はもらえるのか。頼り切ると問題が起こってくる。
- ・なぜセンター化か？リーダーがいなくなったりすると、小学校区に限らず、地域を割り振って考えていけばいいのでは。
- ・提案...三瓶地区19行政区がそれぞれ自立した活動をしているので、センターを3つ4つになってしまうと自立した活動ができなくなるのでは。自立した活動を推進させて、19区の分館はサブセンターとして経費まで見てもらったらどうか。三瓶地区は光熱費の多くを市が出し、1割を地域住民が負担している。今のままなら経費を削減できるのでは。

# E班

## 格差

地域ごとの格差が生まれるのでは

格差を少なくする仕組みをもつ

## 役割

活動の目標づくり

課題の洗い出しがいく

地域で話し合うしくみを作る

地域課題の窓口となる

近くで相談つないでくれることは良い

遠隔で対話ができるしくみがいく

防災活動本庁とつなぐことが必要

## メリット？

縦割りの弊害をなくす

地区の事情が反映しやすい

自分たちなりの活動になりやすい

## 建物

建物はどうなるのか

## 資料29-5

## 人材について

地域でサポートするしくみを作る

事務局を担う人物が大切

市からの助成（人件費）がいつまであるのか

生活の保障をしないといけない

センター長は任用職員で（市の）

地域の独自性をどう担保するのか

人材確保がネックになる

人員配置をこれから決めること

人材育成をする仕組み

人材を探すことが難しい

重要だ

## 公民館との関係

公民館と地域づくりとの関係

公民館でやっていることは自治センターへ移行する

公民館でやっていることも必要に応じてやることができる

地域づくり×公民館に分ける

公民館の窓口と地域づくりを分ける

地域づくり6割行政事務4割（現状）

4人のなかで役割分担できるようにする

その人数でどうやったらできるのか

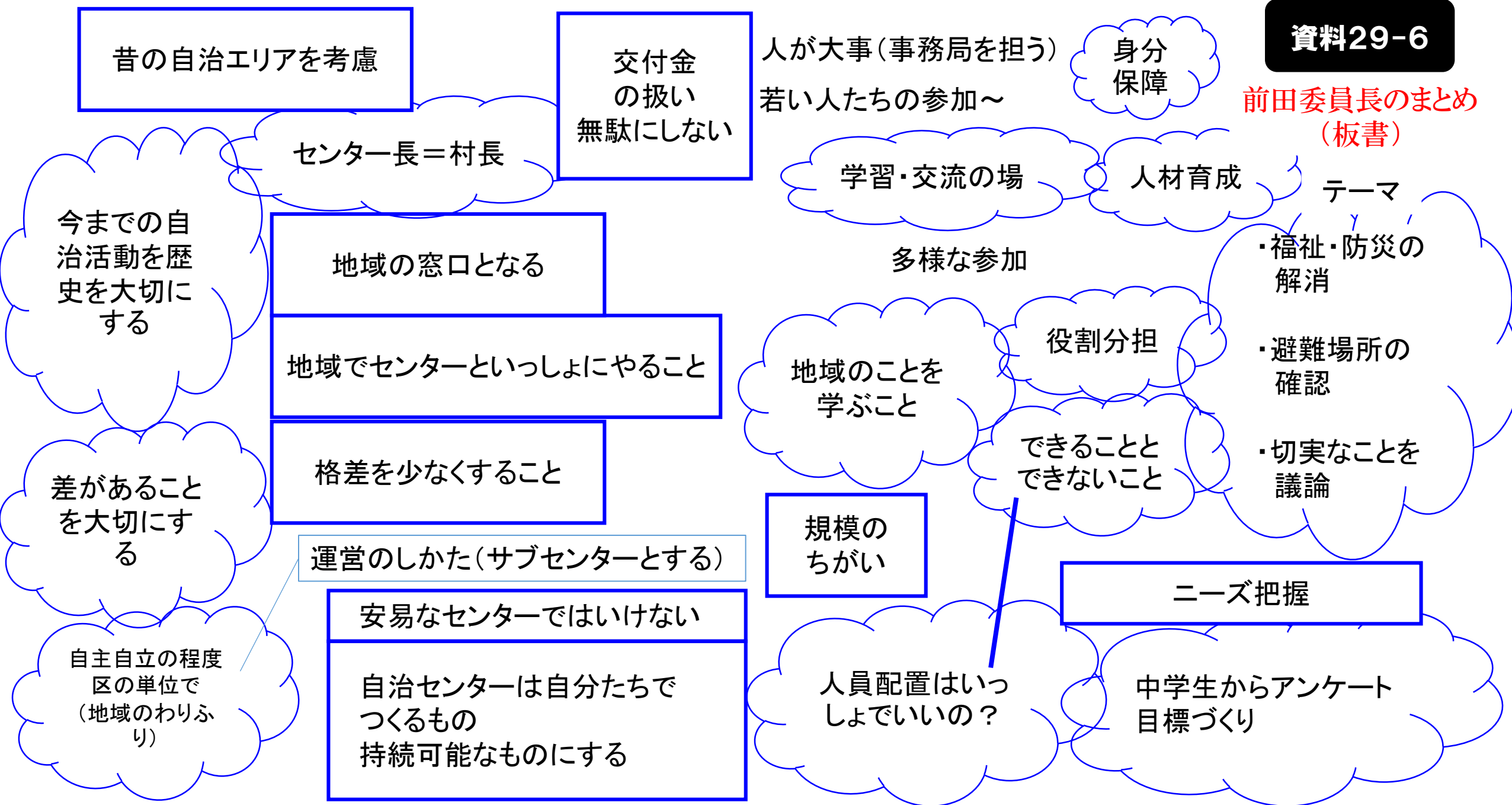
どこまでできるのかを決める

### 【発表概要】

- ・10月1日からモデル地区になる（狩江）は、かりとりもさくの会の活動が活発であることから、専任の事務局が欲しいとあったなかで、センターができれば専任の事務局がつき、狩江の活動にとっていいことだということで検討委員会ができた。
- ・地域づくり活動は公民館が中心になって行っていたので、センターになれば、公民館の活動はどうなるのか住民から不安の声があった。活動センター化しても社会教育や今までの活動は進められることを説明した。
- ・どれだけの役割、機能、活動が出来るのかを話し合った。
- ・人材についての「役割」、地域任用職員の人件費がいつまで保証してもらえるのか。若い人材を雇用すれば将来的なことも考えないといけない。
- ・センター長の勤務や権限がどこまで可能、付与できるか。
- ・運営については市が主体？地域が主体？早い段階で決めてほしい。
- ・仕事をするのは「ヒト」になるので、これは重要。
- ・地域間格差を小さくするためにも人材育成、地域づくり活動の支援と行政側の支援も必要。

## 資料29-6

前田委員長のまとめ  
(板書)



**前回の各班の発表された内容を事務局で分野ごとにグルーピングしました。**

**資料30**

各グループの意見については次の通り色分けしています。

|          |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| A組<br>水色 | B組<br>黄色 | C組<br>桃色 | D組<br>緑色 | E組<br>茶色 |
|----------|----------|----------|----------|----------|

## 行政窓口の場

## 窓口

遠隔で対話ができるしくみがある  
本庁とつながることが必要  
地域課題の窓口となる  
行政の窓口(ワンストップサービス)  
近くで相談つないでくれることは良い

## 体制・運営

規模 一律ではない  
2段階  
三郷本部  
↓  
北本部 南本部  
センターを同規模でやるかを考える  
・人口  
・仕事量  
・何をするか?  
公民館の窓口と地域づくりを分ける

## 施設

建物はどうなるのか  
会議の会場  
高齢者の集いの場  
災害時の避難場所

## 複合機能

金融機関(地元がない場合)  
出張診療所(地元がない場合)

## 支え合いの場

防災  
安心・安全の確保  
防災地震・津波の際の避難  
津波から守る  
ひとりでも多くの人が防災資格者・取得  
安心して住める地域づくり  
防災組織の充実  
地区間の連携  
防災活動・学習・訓練活動  
・事故発生時の避難所開設など  
避難訓練の充実  
定期的な  
防災組織の充実化  
自主防災については、昨年、自助・共助について4団に分けて受講し今後も続けていく

高齢者福祉  
高齢者の災害時個別支援  
高齢ドライバーの問題  
老人ホームの充実を  
一人暮らしの人の支援  
病院に通うための交通手段  
公共の乗り物への配慮  
老人リソース  
独居高齢者への生活支援  
安否確認

子ども・健康  
健康づくり活動  
サークル活動  
子育て支援活動  
親子料理教室  
老人(高齢者)と子どもの交流  
買い物弱者への支援  
買い物難民をなくす  
買い物難民の救済  
移動支援  
タクシー  
福祉バス等の充実(交通網の整備)  
遊子川地区では高齢化が約53%になっており、5年、10年先には活動が難しくなる

## 地域づくりの場

活動  
どんな地域コミュニティを作っていくのか  
地域を支える未来につなぐ自治センター活動  
各種団体とのつながり見直し必要  
一石起す  
いろいろな取組み  
やりくり  
地域と考える  
持続可能性の確保  
専門家を交えた地域主導での取組み  
自分たちなりの活動になりやすい  
地域の活性化  
地域づくり活動  
まちづくり組織の積極的な活動  
地区の事情が反映しやすい

## 役割

活動の目標づくり  
課題の洗い出し  
地域で話し合うしくみを作る

## 財源確保(営利)

商店(地元がない場合)  
自然を活かした営利活動・発信  
交流の場、カフェ、居酒屋(地元がない場合)  
観光産業のとり組み  
経済活動 何がある  
簡易宿泊所(地元がない場合)

## 学びの場

社会教育・生涯学習  
公民館の活動促進  
社会教育  
公民館の事業と組織な社会教育と担保  
スポーツイベント  
少子化する中での子どもたちの活動充実  
社会教育・人権教育の取組  
老人クラブ  
婦人会等の充実  
香ながらの遊びの継承  
公民館でやっていることも必要に応じてやることができる  
公民館と地域づくりとの関係  
公民館でやっていることは自治センターへ移行する  
公民館の維持・継承・発展  
地域行事の維持・継承・発展  
公民館社会教育地域づくりの基本  
諸団体、組織の連携・共働を支援  
放課後塾  
大人・子供  
児童・生徒が学び、実働できるような場所づくり  
学習講座等の開設、支援  
世代を超えた人々のふれあい

## 地縁・歴史

旧町村単位のを考え方を再考する。  
センター化に向けての区別はどうなるのか  
三郷町では小学校校区のしぼりはなじまない  
伝統の継承(歴史・文化)  
歴史・文化の活用  
歴史的な経緯  
↓  
現在  
↓  
未来

## 課題

交付金を維持できるのか  
交付金が無駄遣いできない  
安易なセンターではだめ  
地域ごとの格差が生まれるのでは  
格差を少なくする仕組みを持つ  
住民の自主的な活動に職員は必要か  
自主自立は何なのか  
三郷高校存続  
生徒の確保  
現学生の学校生活の充実  
地域課題把握する機会  
アンケート  
公民館運営審議委員会のような組織  
自主自立  
手を上げるのか?

## 人材育成

事務局を担う人物が大切  
人材育成をする仕組み  
人材育成(後継者、つながり)  
人材を探すことが難しい  
人材確保がネックになる  
地域でサポートするしくみをつくる  
人員(役割、選出の仕方など)  
センター長は任用職員で(市の)  
4人のなかで役割分担できるようにする  
センターの人員配置(地域任用職員)を選出できるか  
村長  
センター長  
行政で募集して欲しい  
予算も含む  
規模  
人員配置

## 人づくりの場

任用職員の生活保障  
生活の保障をしないとけない  
市からの助成(人件費)がいつまであるのか  
地域づくり6制  
行政事務4制(現状)

## その他

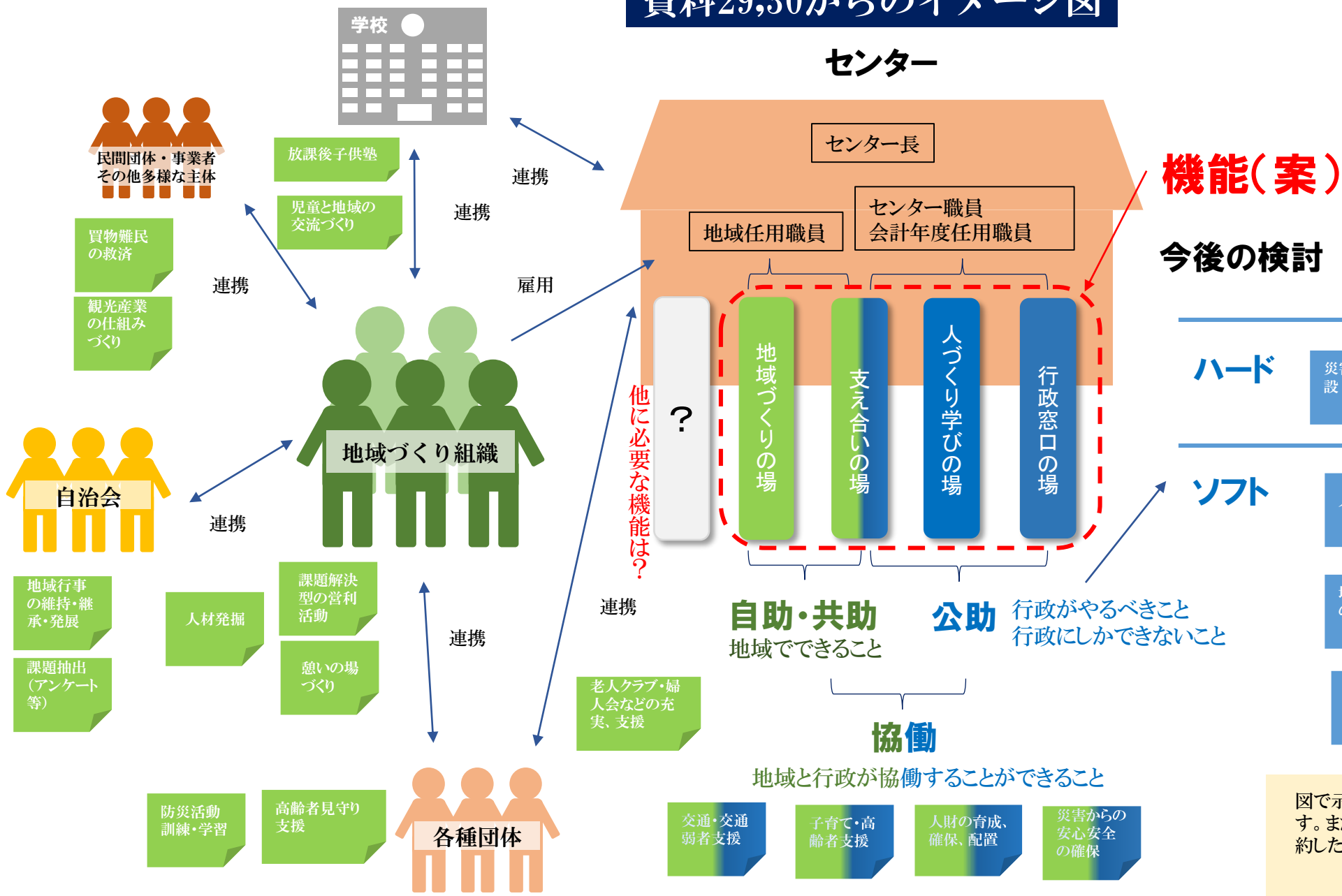
何事にも整理整頓  
行政の機構改革の開示  
重要だ!!

**資料29, 30を基にセンターへ備える機能として  
図示化しました。事務局として、センターに必要な  
機能として次の資料31のとおり、これから求めら  
れるのではないかと考えます。**

# 資料29,30からのイメージ図

## 資料31

資料29、30を基に図示化



図で示す付箋の色は、次の三つを意味しています。また、付箋中の表現は各班で出た意見を要約したものです。



**資料29～31を基に地域住民にとって一番身近な公共施設であるセンターに備わる機能（役割）として、何が求められるのか。**

**皆様のご意見をお聞かせください。**

## センターに備える機能

この中にどのような機能が必要でしょうか？  
皆様のご意見をお聞かせください。

